

第15回テーマ：六甲山と環境教育

～フィールドとしての
六甲山の可能性を考えよう～

記念碑台広場で体験学習

講演内容

- ①環境教育って何だっけ？
- ②環境教育の考え方
- ③体験学習を体験してみよう！
- ④体験学習について

実施日：平成16年6月19日（土）
午後1時～4時場 所：六甲山自然保護センター内
レクチャールーム講師：いわまき けいこさん
岩木 啓子さん

プロフィール

1956年12月生まれ
1979年お茶の水女子大学
家政学部食物学科卒業。
生活協同組合コープこうべ
で組合員活動支援の企画業
務に従事。現在、ライフデザ
イン研究所FLAP代表。

環境教育に触れるいい機会になった

台風6号が接近し、野外活動の実施を危ぶみましたが、運良く晴天に恵まれました。今回は六甲山上での環境教育を考え、短時間でもワークショップを体験するという、当会では初めての試みです。神戸市内の小・中学校や行政機関などで総合的な学習や環境教育に携わっている方々にも参加を呼びかけました。約30名の参加者が集まって、密度の濃い体験をしていただきました。

環境教育は問題解決の学習だ

岩木啓子さんは、参加・参画・体験の支援を専門とされています。環境とは「つながり、循環、バランス」であり、「人間が生きていく条件として考える」ことで、「切り口は自然よりも、まちや生活が主体です」と紹介されました。

また、「環境教育は問題解決学習で、解決策を考え、行動変容につながる学びである」と核心を語られました。そして、環境教育の現状を懸念して「価値・意味とらえ直し型」を強調され、体験的に学ぶことを端的に説明されました。

記念碑台でちょっと体験学習

2時間半という短時間の中でしたが、記念碑台広場に出て「探検！発見！六甲山」という体験学習も行いました。中高齢者も多かったためか、鈍った感性を研ぎながら、普段目に見えないものや体感できないものを困惑しつつ再発見しました。

各自各様に体験したことを交流しながら、さらに理解を深めて、「わかったことを日常に生かす」思いを強めました。

主催：六甲山自然保護センターを活用する会

後援：兵庫県神戸県民局 兵庫県立人と自然の博物館
灘区役所 神戸市教育委員会

スタートは大成功！継続して進めたい

六甲山上での環境教育の実践に向けて、継続して集まりを持つことを問いかけた結果、全員が参加または検討すると回答されました。

岩木さんの見事なサポートで、環境教育を体験的に学ぶことができ、皆さんの参画意欲が高まりました。これをきっかけにして、活動の輪を広げてネットワークを築く可能性を膨らませました。

※詳しくは1～2ページをお読みください。

参加の感想 三村 栄三郎さん

環境教育という高いレベルのテーマに短時間で全員が参画できるようにされていました。自己紹介を兼ね、誕生日の順番に任意？に並び、なごやかな雰囲気づくりからスムーズに本題に入りました。

環境問題を解決する3つのE（技術、規制、教育）は、時代において対応策も大きく変化して行くものである事は理解できました。

五感の違いを示す「探検！発見！六甲山」では参加者それぞれの感性の違いが明確となり、問題の正解となるものは無いが、それぞれが正解であり、環境教育も押し付けで無く体験学習で理解度を高める事が必要です。

美しい地球を守る為には、一人一人が日常生活から見直すことが重要なことを再認識いたしました。

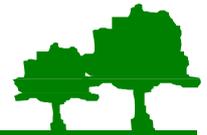


【助成金をいただいている機関】

生活復興県民ネット・地域活動推進講座、灘区「地域力を高める」事業、ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金、コベルコ自然環境保全基金



テーマ:六甲山と環境教育



第15回市民セミナーの流れ

- 13:00: あいさつ
- 13:10: ■オリエンテーション
自己紹介(誕生日順に)
- 13:20: ■セッション1
環境教育って何だっけ?
(一言ラベルの貼り出し)

- 13:40: ◇おはなし
環境教育の考え方
- 14:10: ■セッション2
体験型環境学習を体験してみよう
- 15:10: ◇おはなし
体験学習について
- 15:45: ■ふりかえり・わかちあい

今回は、ワークショップ体験を踏まえて解説を行った。自己紹介と環境教育についての一言をラベルに書き出すなど、随所で時間短縮を工夫し密度の濃い内容になった。

講演のあいさつ(岩木 啓子さん)

私は、参加・参画・体験の支援を専門としております。人が主体的に動き、みんなが関われる様に支援しています。本日のねらいとしては、理解する、つながる、やる気になる、以上の3つです。



やわらかな口調で説明

- 理解する:** 環境教育の大枠を理解して下さい。
- つながる:** 今日の出会いをきっかけに、六甲山でフィールドを作る新たなネットワークを作ります。
- やる気になる:** 今日で終わるのではなく、今後の実践に向けて取り組んでみて下さい。

■オリエンテーション(自己紹介)

参加者それぞれが知り合うために、無言で誕生日順を想定して並んだ後、一人ずつ名前と環境教育や六甲山との関わりについて自己紹介をした。これで初対面の人とも親しめるきっかけができ、一挙に緊張感を解きほぐした。効果的なアイスブレイキングの手法でセミナーへの関心が高まってきた。



各自思いを持って集合

■セッション1(環境教育とは)

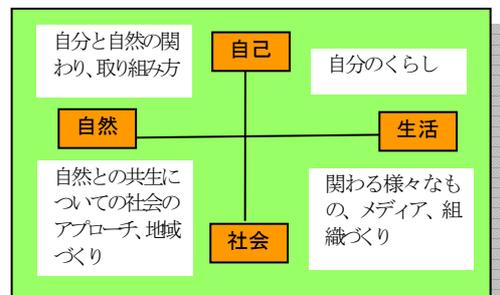
次に、それぞれが考えた環境教育のキーワードを、各自が読み上げながらボードに貼りだしていた。強気で真ん中に貼る人、控え目に周縁に貼る人がいて、笑いを誘った。

環境教育って何だっけ? 発表の一部を紹介

- つながりさがし
- お金で買えないもの
- 自然環境と人の関わりを感じる
- ひとづくり
- 今よりも美しく
- 生活の見直し
- 周囲を知ること
- 地球市民の全人的な教育
- ほっとできる場所
- 自然と共生 など

◇おはなし

皆さんが頭に思い描くキーワードは実に様々でした。環境教育とはこういうものと確定されてはならず、人それぞれのいろいろな関わりの中でとらえられています。次のように整理できるのでは。



環境教育に答えはない

◇環境問題とくらしのつながり

「環境」の概念のキーワードは、つながり・循環・バランスで、人間の活動によりバランスが崩れると環境問題が起こります。自然界では分解できない物質の誕生による質的問題と、乱獲や石油などの生産と消費・廃棄と分解のアンバランスによる量的問題の2つがあります。人間の生きていく条件としてどうなのかが、環境問題には外せません。産業公害型から都市生活型へ、北の国と南の国という構造もあります。

【環境問題を解決する3つのE】

- Engineering (技術) 例: 空気を汚染しない車や家電の開発技術
- Enforcement (規制) 例: 排水規制や京都議定書などのルール作り
- Education (教育=共育) 例: 皆で情報交換をして、やることを拡大していく

◇環境教育は問題解決学習

学校の教科教育と違う。正解を教えるのではなく、解決策を考える、行動変容につながる学びです。環境教育で学ぶのは知識・情報のみでなく、感覚・マインド、態度・価値です。現状は、知識・情報偏重型、行動指針提示型、非日常癒し型が見られます。「価値・意味とらえ直し型」が必要であり、内在的な価値創造を目指して、体験的に学ぶ(体験学習法)ことが有効です。

■セッション2（探検！発見！六甲山）

五感を動員して、たくさんのもを発見してみよう！と、全員が記念碑台広場に出かけた。ワークシートを手に、**「まるいもの」「生命力を感じるもの」**といった項目について、目や耳さらに手を使って感じ取ろうと歩き回った。

「どきどきワクワクしない」とこぼしながら、さわやかな風に吹かれて結構楽しそうだ。



■それぞれが感じた五感をわかちあい

自然保護センターに戻って、3人のグループに分かれ体験学習で得たものを紹介し合った。ワークシートの内容が各人各様なのに感心し、お互いに触発されながら、賑やかな対話が飛び交った。

グループの代表から体験交流で気づいたことを発表した。小さな体験学習であったが、交流することにより、さらに気づきが深まる手応えを感じた。

◇参加体験型の学び

体験的に学ぶとは、「する」→「みる」→「考える」→「わかる」の繰り返し。このステップで何を感じたのか互いに話し合い刺激を受け合う。通常は「する」で終わってしまう。「わかる」は人それぞれ、日常に生かすことが大切です。

（続いて参加体験型学習プログラムの導入→本編→まとめの基本構成や、学習者が自ら学ぶことを促進するファシリテーターの役割と態度の説明。さらに、様々な実践事例の紹介をしていただいた）



体験学習の事例を紹介

参加の感想 岩浅 敬由さん



兵庫県環境政策課に平成8年に赴任した時、地球環境サミットが開かれて5年が経過していたものの、環境教育は主要課題ではなかった。それから、6年間の任期中、こども環境会議、エコフェスティバルの開催など環境教育の普及に取り組んできた。

3年前からは神戸生活創造センターで生涯学習の推進に取り組んでいる。

今回、講師の岩木さんにお願ひがあり、良い機会だと六甲山魅力再発見市民セミナーに参加した。産業型、都市生活型公害など懐かしい言葉が行き交う。アイスブレーキング、体験型学習、振り返り、昔を思い出しつつ、受講した。岩木さんとは、10数年の付き合いだが、ワークショップを受けるのは初めて。参加者を飽きさせない、短時間で“肝”を外さない講座の進め方は流石だ。

しかし、参加者の熱意に比べ、六甲山自然保護センターの周囲に魅力を感じなかったのは私だけだろうか。行政として責任を自覚した次第である。

◇岩木さんのまとめ

今回皆さんには、思いついたことをラベルにしたり、提案をシートに書いてもらいました。これから六甲山をフィールドとした環境教育を考えるプログラムを実践したいと考えております。今日をきっかけにネットワークをつくっていきたいと思いますので、今回限りでなく、どうぞこれからもお付き合い下さい。

※事務局の抱負

「みんなで築こう！六甲山上の生涯学習ゾーン」の手掛かりがたくさん出ました。賛同してくれる人も大勢集まった。これからの活動を広げネットワークをつくっていきます。岩木さん、これからもよろしく。

◆参考・配布資料など：

- ・レジュメ「心に響く環境教育のつくり方・考え方」
- ・体験学習ワークシート「探検！発見！六甲山」
- ・参考：『地域を活かした環境学習』
大阪府環境情報センター発行

ライフデザイン研究所FLAP
〒658-0065 神戸市東灘区御影山手1-10-10
TEL・FAX：078-842-3637
URL：http://www.flap-web.com/
E-Mail：kei-iwaki@nyc.odn.ne.jp

◆カンパに感謝！ありがとうございました。

カンパ箱へのご協力、ありがとうございました。集まりました金額1,259円については、次回の市民セミナーの茶菓子代にさせていただきます。

◆シチダンカの挿し木をおみやげに

神戸市立六甲山小学校より、六甲山のアジサシチダンカの挿し木を参加者につづつご提供いただきました。この度のご配慮に感謝いたします。



大事に育てましょう

◆参加者：30名（順不同・敬称略）

岩木 啓子	小坂 忠之	西川 文雄	三村栄三郎
村上 定広	西尾 智明	石田 澄子	青木 孝子
八木 浄	山西 一平	澤田 中	高光 正明
南馬 進	小笠原康人	岩浅 敬由	高畑 正
越智 正篤	金坂 尚人	福谷真知子	垣井 清澄
山下 潤治	中川 勇二	浅見 真一	堂馬 英二
米村 邦稔	松井 光利	中川貴美子	藤井宏一郎
中野 一	菖蒲 美枝		